

新潟県小中学校教頭会

会報

No. 188

目次

●副会長あいさつ	1
●県教頭会ブロック大会の報告	2～3
●専門部活動報告	4
●関ブロ栃木大会報告	5
●郡市教頭会ネットワーク	6～7
●特集	8
●随想	9
●教育懇談会報告	10



河井継之助に想いをよせて

新潟県小中学校教頭会

副会長 佐藤昌弘

(長岡市立阪之上小学校)

長岡は昨年、開府 400 年、戊辰戦争 150 年という節目の年であった。歴史を見つめ先人の生き方に多くふれる年となった。

長岡の三傑、河井継之助は、越後長岡藩家老で戊辰戦争において独立中立の立場を通そうとした。しかし、小千谷談判の決裂によって長岡は戦火に焼かれることとなった。それまでほとんど名前を知られていなかった継之助の名は、司馬遼太郎氏の「峠」で一躍広まり、2020 年には「峠 最後のサムライ」として映画化される予定である。

戊辰戦争によって完膚なきまでに叩きのめされた長岡が立ち直ることができたのは継之助が残した精神性が強かったからと言われている。維新後、彼の言葉を心の糧として、新しい時代に多くの人材が輩出された。幕末から維新という大きな変革の時代を生きた継之助に想いをよせ、この一年の在り方を考えてみた。

【継之助の改革精神】

継之助は既存の常識にとらわれず、何が大切かを第一義として断行する人間だったと言われている。当時、長岡藩政は危機的な状況にあったが、新時代を予見した既存の考え方にとらわれない改革を断行した。しかし、過激な改変ではなく、現実に即した制度の確立と、そこに携わる人々との一体感のもとで改革を進めたという。「使うものも使われるものも互いに愉快地仕事をしなければならない。」という言葉からも、継之助の人柄が想像できる。

時代を読む先見性、強い信念や実効性、人々の思いを大事にする人間性等から、リーダーとしての大事な資質が見えてくる。

各校では新学習指導要領の実施に向けた準備や働き方改革の取組が進められている。しかし、その道のりは平坦なものではない。未来を拓く子どもを育成し、やりがいをもって働ける学校をつくるには、全職員が一体となって知恵を出し、納得解を得るための努力を続けなくてはならない。常識の枠に囚われていないか、できないと思い込んでいないかと、自分自身に不断に問い続ける必要性を感じる。

【継之助の人間性】

継之助は若い藩士に「何事も為さねばものごとは解決できないが、その前に己の目と耳で真実を見極めることが大切。特に他人からの情報を先入観を加えず、聞くことが危機に対応する最善の策」と語っている。子どもたちには「主体的・対話的で深い学び」が求められている。教頭も同様に、自分の目と耳を使って情報を収集する能動性やネットワークの構築、様々な見方・考え方を受容する懐の深さ、情報を思慮深く判断する力が求められている。

また、「人は心がくじけそうになることが多いものだが、その時にこそ絶妙な機会が訪れたと自覚することも面白い」とも語っている。教頭は多くの課題と対峙していて、そのための悩みも少なくない。困難な課題に真剣に向き合うあまり心が疲れてしまうこともあるだろう。そんな時、課題や自分自身をちょっと俯瞰して見てはどうだろうか。そして、ここは峠のどのあたりかと思いを巡らせてみれば、新たな解決の道筋が見えてくるかもしれない。

平成から新元号に代わる節目の年である。改革の精神をもち、人間性を磨き、学校課題の解決に向けて一歩一歩、着実に歩いていきたい。

県教頭会ブロック大会の報告



上越地区ブロック別 研究大会の成果と課題

上越地区ブロック別研究大会研修部長

水澤 哲

(糸魚川市立中能生小学校)

大会は、平成30年11月2日、糸魚川市青海総合文化会館を会場に開催されました。3分科会の協議等を通して見えた成果と課題を以下に報告いたします。

<成果>

- ◇ 各種対応に追われ、多忙化に拍車をかけている。小規模校がスタンダード。やりがいと省力化を両立する学校、地域に頼られ貢献できる学校を実現するため、「地域を熟知し、子どもも地域も育てる教頭」を目指す大切さを共有できた。
- ◇ 小中連携はどの中学校区でも組織化されている。組織の円滑な運営や取組の確実な実践のための教頭会等の役割について協議できた。
- ◇ 教頭が「人・物・金・時間・情報」を把握している。人材活用や取組の重点化等、効果的な活用の必要性について改めて理解する機会となった。

<課題>

- ◆ 学校課題に校内のマンパワーで対応しようと考えがち。外部人材を効率よく、日常的に取り入れるためのシステムを構築する必要がある。
- ◆ 充実した小中連携のためにPDCAサイクルを活用して共通取組を実践する。従来の方法では、膨大な時間と場が必要。無計画なスリム化は取組の形骸化につながる。学校運営協議会等を核にして保護者や地域、団体を巻き込んでいく。
- ◆ 効率的な運営を目指す、教頭の業務増大による多忙化が懸念される。校内のミドルリーダーと地域で核となる人材を育成・発掘することが不可欠である。

また、分科会とは別に、研究大会の在り方について、働き方改革の視点で多く意見が寄せられました。学校の中核を担う教頭が率先して改善を図ろうとする姿勢の表れと感じました。最後に、ご指導をいただきました指導者の皆様、上越地区ブロック教頭会の皆様に、感謝を申し上げ、報告といたします。



県教頭会ブロック別 研究大会(中越)の報告

十日町市・中魚沼郡小・中教頭会

研究部長 宮崎 次朗

(十日町市立中里中学校)

当地区教頭会では、昨年度から総務部・研究部・設営部・会計部・事務部を組織し、大会の準備を進め、無事大会を終えることができました。

第1分科会では、小中連携・地域連携について話し合わせ、教頭が積極的に自校化していくことが大切であることの認識を高めることができました。

第2分科会では、県内各地域に迫りくる学校の統廃合について話し合わせました。児童生徒数減少に伴うこの統廃合の問題は関係する学校が多く、活発な意見が交わされました。実践発表した提言者の取組については、その関係資料をデータベース化して県教育支援システムなどを活用して全県で共有できるようにしてほしいなどの意見が多数出されました。

第3分科会では、学校事務の効率化を図るために事務職員の積極的な学校運営への参画を推進することが、必要不可欠であることが確認できました。また、グループ協議では、働き方改革に向けて校務支援システムによる事務処理を全県共通化できないかという意見も出されました。

第4分科会では、教職員の資質・指導力向上について「メンターメンティ方式」が有効であることについて話し合わせました。また、OJTについて全職員への周知や共通理解をしっかりと進め、具体的な取組を進めていくことが重要であることを確認しました。

第5分科会では、「やりがい」の持てる教職員集団づくりや学校体制づくりについて話し合わせました。教職員へのアンケートや意識調査を定期的に行い、職場の雰囲気や人間関係を常に把握することへの意識を高めていくことが大切であることをあらためて確認することができました。

今大会は、どの分科会でも実践する職員の負担について多くの質問や意見が出され、国が推し進める「働き方改革」が、学校現場でも喫緊の課題であることが強く印象づけられました。

県教頭会ブロック大会の報告



研究大会の価値は 活用されてこそ

新潟市中学校教頭会

会長 本 多 豊
(新潟市立東石山中学校)

下越Aブロック研究大会は、新潟市教育長前田秀子様、新潟県教育庁下越教育事務所長井上正裕様、新潟市小学校校長会副会長森龍憲様、新潟市中学校長会長猪股博英様を御来賓にお迎えし、新潟市中学校教頭会の主管で開催した。

研究大会にあたり、次の姿を目指した。

- ・ 全県研究課題と実践の視点に基づき、新潟県・新潟市の課題を把握した上で自校の課題を明確にしその解決のために活用される研究にすること。
- ・ 協働体制を明確にして企画・運営にあたることを通して、参画意識と一体感を高めること。

第一分科会では、新潟市小学校から、小中合同研修会と「新潟市教職員の資質向上に関する指標」を活かして、教頭として教職員の資質向上をどのようにマネジメントしたかという実践が報告された。

第二分科会では、佐渡市小学校教頭会から、さまざまな思いや個性のある教職員の方向性を揃え、学校運営への参画意識を高めて組織力の向上を図るために教頭としてどのようにリーダーシップを発揮するとともにフィードバックを工夫したかという実践が報告された。

第三分科会では、佐渡市中学校教頭会から、佐渡市独自の「課題解決型職場体験」の取組を通して、地域と協働で持続可能なキャリア教育を推進していくために教頭としてどのようなマネジメント力を発揮したかという実践が報告された。

また、実践報告について、ファシリテーションで鋭角的に議論を深め、問題意識を高めながら勤務校や郡市の課題を見いだすことができた。御多用の中、示唆に富む御指導を賜った各分科会の指導者の皆様にも改めて心から感謝申し上げたい。今後、会員一人一人が持ち帰った研究大会を通しての学びを勤務校や郡市で実際に活用してこそ本研究大会を開催したことに本当に価値があったと言えるだろう。



下越Bブロック 研究大会の成果と課題

下越Bブロック研究大会実行委員長

山 田 耕 世
(五泉市立五泉小学校)

平成30年11月2日、下越Bブロック研究大会（五泉大会）が、ガーデンホテルマリエールで開催されました。以下、成果と課題の概要を報告します。

【成果】

- 3つの分科会ともに、提案地区教頭会の取組の主張点が明確に示された。そのことにより、グループ別の話し合いも充実し、実り多い研修会となった。
- アンケートでは、「大会日程」「開会式」「要項関係」の肯定的評価が100%、「分科会運営」「閉会式」の肯定的評価が98.8%だった。これまでの研究大会のノウハウや反省事項を活かしたことが大きな要因と考える。
- 「来賓を減らす、祝辞依頼者を減らす、要項用封筒を作らない、会場諸表示を減らす」等に努めたことで多忙化解消につながった。
- 最終回の実行委員会を大会会場でを行い、当日のシミュレーションを丁寧に行った。そのことにより、大会当日の運営を円滑に行うことができた。
- 他郡市からの大会会場へのアクセスが良く、駐車場も十分な広さであった。

【課題】

- 昨年度末から日程を示し、要項配付の際にも各郡市教頭会事務局を通じて欠席を避けるよう連絡を行ってもらったが、直前の欠席者が数名いた。全員参加を目指した大会となるように更なる策を考える必要がある。

五泉市・阿賀野市・東蒲原郡小中学校教頭会の皆様におかれましては、昨年度から綿密な準備や計画等を行っていただきました。素晴らしい皆様で、一緒に取り組めたことが本当にありがたかったです。

最後に、ご後援・ご指導いただきました関係諸機関の皆様、そして、下越Bブロック教頭会会員の皆様に感謝申し上げます。研究大会の報告とさせていただきます。

専門部活動報告



調査要請部の活動報告

調査要請部長

島津 弘次

(新潟市立有明台小学校)



教育課題部の活動報告

教育課題部長

多々良 儀仁

(長岡市立東中学校)

調査要請部では、今年度も次の2つの調査事業を柱に活動を展開しました。

- 1 勤務実態調査（本県独自）及び全国公立学校教頭会基本調査実施と報告書作成
- 2 「平成30年度新潟県義務教育の振興に関する要望書」の基礎資料作成のための調査実施と意見報告書作成

詳細は、年度末発行の報告書をご覧ください。

一端を紹介しますと、20時30分以降に退勤する割合は19.5%となり、昨年と比べると6.3%減少しています。それに対して、7時以前に出勤している会員の割合が49.6%となり4.4%増加しました。夜の方が早朝に移動しているようです。また、平日の勤務時間が13時間以上の会員は、昨年は39.9%でしたが、今年度は35.5%と減っています。しかし、身体的・精神的疲労を感じている会員は依然として多く、それぞれ60.4%、62.4%となっています。さらに、教頭の職務の中で負担を感じる職務は、「依頼文書処理・各種調査への対応」が第1位で、80.3%でした。次いで、「『苦情』への対応」で、65.0%でした。このような実態から、教頭の職務改善を一層進めていかなければなりません。全公教と連携し、厳しい勤務実態を関係機関に訴えていきます。

要望書への調査では、要望数が多い順に「新学習指導要領の実施を見据えた学習指導の改善及び生徒指導の充実に向けた人的配置の拡充」（563人）、「教員の超過勤務、過重労働削減に向けた人的配置の拡充（503人）」、「きめ細かな指導の実現に向けた6学級規模小学校への級外教員配置及び中学校学級担任複数配置の拡充」（335人）となりました。業務改善・働き方改革に対する要望が急上昇したことがよくわかりました。今後も校長会と連携し要請活動を進めていきます。

最後に、調査の実施に当たり、皆様に多大なるご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。

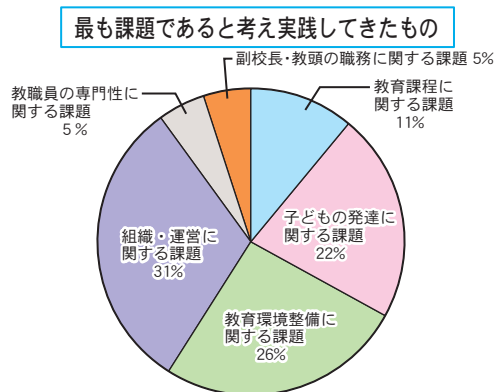
今年度は、学習指導要領移行期間の初年度でした。特別な教科道徳への取組や指導要領の趣旨に沿った授業改革、さらには、中学校の部活動ガイドラインに対応する校内の体制づくりや保護者、関係機関への説明などが行われたものと思います。

日々の校務でお忙しい中、アンケート調査に御協力いただきありがとうございました。また、各郡市で、とりまとめ・集約をしていただきました皆様にも厚く御礼申し上げます。

いただいた回答の内容は多岐にわたるものでしたが、その莫大なデータを、教育課題部で集約・考察し、12月の理事会に提出しました。

それぞれの学校で、学習指導要領の実現に向かって研修を工夫し、課題意識をもって真摯に取り組んでいる姿勢が感じられる結果でした。しかしその反面、多忙化解消への取組など、取り組んではいるが成果として実感できていないことも自明になりました。皆様からお寄せいただいた課題解決の取組については、紙面の都合でここに掲載することはできませんが、調査要請部と合同で作成する「調査報告書」や県教頭会HPを御覧ください。そこにはたくさんの具体的な実践と改善のヒントが記載されています。

今年の11月には関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会が新潟市で開催されます。大切なことは、ここでの分科会が、教育課題に正対し、これからの職務に生かせる議論にすることだと考えます。新潟県教頭会の一員として自身の実践や考えに基づき、積極的な議論ができたと思います。



関づろ 栃木大会報告



栃木大会に参加して

妙高市小中学校教頭会
黒田 匠
(妙高市立妙高高原中学校)

第59回関東甲信越地区公立学校教頭会研究栃木大会は、11月8日、9日に宇都宮市で行われました。

初日の開会行事では、大会の研究主題を全国公立学校教頭会の研究主題の継続的発展を受け、大会の研究主題を「豊かな人間性と創造性を育み未来を拓く学校教育」、サブテーマを「世界を見つめ 地域とつながり 力強く未来を生き抜く子どもの育成」としたことの説明や、栃木県がめざすものについての基調提案がありました。副校長・教頭の、広い視野に立ち自身の力量を高め、職責を遂行しながら子どもが抱える今日的課題に果敢に取り組むことの必要性を確認しました。

記念講演では、昭和41年より日本野球界の第一線で長年審判員を務め、文部省や弁護士のお仕事もされてきた清水幹裕さんより、『「今、教育に求められるもの」～魅力ある指導者として』と題するお話を伺いました。清水さんの楽しみは、名監督や名選手に会えることであり、名監督は、とても明るいチームをつくり、選手が楽しそうに野球をすること。名監督に共通する点は、①明るくて潔い。嫌なことを忘れる能力に長けている。②悪いことをしっかり「悪い」と叱れる。③選手の気持ちをのせるのが上手い。…とされ、人間力が高いと述べられました。また、名選手は、「失敗を恐れない、何度も試すことをする人。失敗を糧に成長できる。自分を未熟だと思い、言い訳はしない。よく練習をし、自分は練習をすれば絶対に上手くなると信じ切っている。世の中をのんでかかり、自分は価値ある人間だと考えている。」そんなお話が印象に残りました。

2日目は、9会場で計16の分科会を行いました。私は第6B分科会「副校長・教頭の職務に関する課題」に参加し、「教頭職の実態把握と多忙化改善における管理職としての役割」や、「社会とともに力強く生き抜く子どもの育成を目指しての役割」を協議しました。各県の工夫を凝らした力強い取組に触れ、とても充実した研修機会となりました。



豊かな人間性と創造性を育み 未来を拓く学校教育

～世界を見つめ 地域とつながり 力強く未来を生き抜く子どもの育成～
村上市岩船郡小中学校教頭会
中山 敏雄
(村上市立岩船中学校)

栃木大会は、「餃子の街」として有名な、さらに「カクテルの街」「Jazzの街」でもある宇都宮市において、11月8日、9日の2日間行われました。

1日目の開会行事で表題をテーマに基調提案が行われ、引き続き「今、教育に求められるもの～魅力ある指導者として～」と題して、弁護士清水幹裕さんの記念講演がありました。独立行政法人教職員支援機構講師、東京六大学野球連盟審判技術顧問を務める傍ら、40年間に渡り審判員として名監督、名選手に関わり生き方を見てきた経験から、「立派な（魅力ある）指導者は、明るく潔い、悪いことは悪いとしっかり選手を叱っている、選手の気持ちをつかんでいる」。また、全力で取組む球児たちから「たくさん感動をもらった」とのお話がありました。最後に、「大人に感動を与えてくれる子どもたちをたくさん育ててほしい」とお話を締めくくられました。

2日目の「教育目標・教育理念に関する課題」の分科会では、「地域に開かれた学校づくりのための教頭の役割」、「社会に開かれた教育課程」と題して2つの提言発表がありました。地域連携と小中連携による教育活動を展開・推進するとともに、それぞれの取組をつなぐカリキュラム・マネジメントの確立を実践研究した成果が述べられました。また、全市小中一貫教育及びコミュニティ・スクールが導入され、社会に開かれた教育課程の実現を目指すための教頭の関わりを研究した成果が述べられました。

グループ協議では、研究の成果や課題を基に「理念、教育方針等の家庭や地域との共有」「教育資源の有効活用」「コミュニティ・スクールとの関わり」を教頭は、どのように進めていけばよいのか話し合われました。また、関東各都県における様々な取組みの成果や課題、意見交換が活発に行われました。

分科会閉会式では、副校長・教頭の役割を再確認し今後の学校運営への決意を新たにして大会宣言が

郡市教頭会ネットワーク



ともに学び合い、自信と自覚を 高める教頭会を目指して

柏崎市刈羽郡小中学校教頭会
会長 岩田 正行
(柏崎市立柏崎小学校)

柏崎市刈羽郡小中学校教頭会は、小学校 21 校、中学校 13 校、中等教育学校 1 校の計 35 人の教頭で構成されています。そのうち 19 名は、1、2 年目の新任教頭であり、先輩方から指導を受け、切磋琢磨しています。

教頭会として、今年度の研修テーマを 2 つ設定しました。『授業づくり』、『学びづくり』を推進する教頭の役割」と「郡市行政機関の事業や予算等による自校の教育的資源の有効活用による教育の充実」です。自校の特色を生かし、「授業づくり」「学びづくり」に教頭として積極的に関与し、教職員の専門性を高め、学校課題の達成を目指しています。また、昨年度までの研修成果を生かし、教育行財政に対する専門性を高め、「費用対効果」の視点からも研修を深めています。

年間 8 回行われる定例研修会のうち、12 月と 1 月の研修会では、全員がこのテーマに沿ったレポートを持ち寄り、グループに分かれて実践発表と情報交換を行いました。互いの創意あふれる実践に刺激を受けた研修となりました。

また、事務職員部と連携して、毎年合同研修会を行っており、今回は日本大学の末富芳様を講師に迎え、教育行財政の講演と、「教育財政戦略シート」を活用して、自校の教育活動と財務・財源をリンクさせ、より効果的な運用・運営を検討しました。教頭が事務職員といかに連携し、協働体制をつくっていくことが重要かを改めて感じる機会となりました。

さらに、研修だけでなく、会員相互の親睦を深めることも大切にしています。年 4 回程度懇親会を行い、横のつながりを強めています。そして、電話や学校間ネットワークの回覧板等を活用して、いつでも気軽に連絡や相談ができる関係をつくっています。

今後も、研修の充実と会員相互の連携強化を目指して、活動を充実させていきたいと考えています。



学校の「要」として 力量を高める教頭会

長岡市三島郡小・中・総合支援学校教頭会
幹事長 稲毛 真哉
(長岡市立千手小学校)

1 はじめに

今年度「開府 400 年」を迎えた長岡市、そして出雲崎町の子どもたちを育成する小・中学校、総合支援学校、高等総合支援学校、附属小・中学校それぞれの学校の「要」となる教頭で組織する当教頭会は、現在 88 名の会員で構成されています。会員は縦軸として「総務」「調査要請」「厚生」「研修」のいずれかの委員会に、横軸として近隣地区毎の 6 つのブロックのいずれかに所属しています。人数が多いという利点を生かし、豊富な人材が縦横のしっかりとした組織に所属することで、以下の活動をチームワークよく展開し、各自が力量を高めています。

2 教頭会の活動

まず当教頭会の要となる活動として、春と冬に総会と懇親会を開催しています。その際、長岡市教育委員会主管兼管理指導主事の皆様よりご指導をいただいたり、懇親会には小・中学校の校長会長様、長岡市教育委員会の皆様もお招きしたりと、総会・懇親会は「横と縦のつながり」を強める大切な機会となっています。

年 3 回の全体研修会の 1 回目は新潟アルビレックス BB の広報担当の方を、2 回目は長岡市大手通商店街の振興組合理事長様をお招きし、人材育成や活性化に向けたアイデアや取組を学ばせていただきました。全体研修会では、研究大会の検討、プレ発表も行います。発表者は同じブロック会員が支え、本番よりも多い人数の前でプレ発表を行うことで、自信をもって本番に臨むことができます。全体研修会 3 回目は、校長会連絡協議会長様よりご講話をいただく予定です。その他、ブロック毎に地域巡検や施設見学を行い、研鑽を積んでいます。

3 終わりに

様々な困難が教育の現場に降り注ぐ昨今ではありますが、当教頭会は新元号に変わる今年も長岡市、出雲崎町の子どもたちのために各学校の「要」である 88 名全員の力を結集して取り組んでいきます。

郡市教頭会ネットワーク



魚沼市小中学校 教頭会の紹介

魚沼市小中学校教頭会

小山 史
(魚沼市立堀之内中学校)



郷土愛を軸にした キャリア教育の推進 「課題解決型職場体験」

佐渡市中学校教頭会

会長 風間 広樹
(佐渡市立新穂中学校)

1 はじめに

魚沼市小中学校教頭会は、小学校9校、中学校6校、合計15校の小規模な教頭会です。顔がよく見える利点を生かし、教頭同士が遠慮なく情報交換を行い、業務推進に役立てています。教頭会として、同一歩調で取り組んでいる内容を紹介します。

2 研修と連携

- 魚沼市は、平成26年度から「学力向上」、「不登校発生率の低下」を目的に、「温かい学級づくり支援事業」に取り組んでいます。この事業を推進するツールとして「Q-U」を活用しています。市内の全学級担任が、専門家からQ-Uの結果に基づいたコンサルテーションを受けています。また、市内全学校が校内事例検討会を実施しています。各校教頭はこの事業の推進役であり、実効性のある取組にするため、学習指導センターの指導を仰ぎ、継続的に研修を行っています。また、今年度のコンセプトである「実践と発信」を意識し、モデル指定校発表会や中学校区実践発表会を積極的に参観し合い、みんなで魚沼の子どもを育成するというスタンスで意見交換を行っています。
- 事務共同実施グループごとに、事務職員との合同研修を行っています。今年度は、各校の事務経営計画を紹介し合い、諸費未納者に対応する際の教頭との役割分担等について情報共有し、有効な方策を協議しました。
- 1年間の振り返りと次年度以降への方向付けを確実にを行うため、中学校区ごとの特色ある取組をまとめた研究集録を、市教頭会として作成しています。中央研修等に参加した教頭の報告も掲載し、最新情勢に関する情報共有にも活用しています。

3 おわりに

夏は暑さとの戦い、冬は雪との戦いとなる魚沼市ですが、大変風通しがいい教頭会です。これからも互いの力量を高め合い、魚沼の子どもたちのために力を尽くす教頭会でありたいと思っています。

佐渡市の中学校は13校中、1校が教頭未配置校で、ここに佐渡中等教育学校を加え、13名で中学校教頭会を構成しています。

研修会は前期7月と後期1月の2回。下越Aブロックや県大会、関プロの発表を中心に、研究のまとめやプレ発表などの内容で、市内校長や指導主事を講師に招いた指導・講話など、充実した研修を行っています。

12月の小・中合同研修会では、両教頭会から提言発表を行っています。指導者は下越教育事務所指導主事と佐渡市教育委員会教育指導主事の皆様に依頼し、県大会やブロック大会に向けた発表・協議の場として位置付けています。4月の総会后と、この合同研修会後の懇親会は、市内の教頭が一同に集う、貴重な情報交換の場、交流の場となっています。

下越Aブロック研究大会では「郷土愛を軸にしたキャリア教育の推進を目指して」をテーマに、佐渡市教育委員会が推進する「課題解決型職場体験」を題材として研究を行っています。従来型の職場体験から一歩進み、事業所から出された課題「ミッション」に対して、中学生としての解決策を提示することで、郷土佐渡の将来を担う人材を育成するという意味があります。教頭として、教頭会としての関わりがその研究内容です。来年度の新潟関プロ大会では、研究の集大成として、金井中学校が提言発表を行います。

市独自の「Webグループウェア」で、メール配信や掲示板・回覧板機能を活用し、各校の現状や意見を共有し合って、課題解決に生かしています。また、勤務時間管理のソフトや文書ファイル管理ソフトなどを共有し、業務の効率化に役立てています。年度末には広報誌を刊行しており、年間活動の記録、研修会の記録、研究報告の他、全会員が随想を執筆し、1年間の振り返りを行っています。

特集 「働き方改革に向けた取組」

意識改革で 働きやすい職場を



新潟市小学校教頭会

星野 亨

(新潟市立白井小学校)

2019年度の採用に向け実施された小・中学校教員採用試験での競争倍率が、新潟県・新潟市ともに過去最低で、かつ全国最低水準であったと報道されました。働き方改革を進めることは、現職の私たちが生き生きと子どもたちと向き合えるために重要です。しかしそれだけでなく、これから教職を志そうとする後輩に対しても、働きやすい職場づくりをしていく責務があると痛感させられました。

当校では、一人一人の教職員が自分の働き方を、自分たちの職場を変えていこうという意識変革を求め、次のことに取り組んでいます。

1 出退校簿の自己管理による意識改革

新潟市が、教職員が自分の勤務時間を把握し意識するために推し進めている出退校簿が2年目となっています。特に今年度出退校簿は、前年度同月の超過勤務時間との比較増減が表示されたり、月ごとの超過勤務時間の推移がグラフ化できたりと機能が増え、活用しやすく更新されました。教職員の意識が、記録させられている、管理されている出退校簿から、自己管理するツールとしての出退校簿へと変わるように、声かけや研修を繰り返しています。「今月は、昨年度に比べ超過勤務時間が減っている」と、自分自身で勤務時間をマネジメントし、働き方の変容を意識する教職員が増えてきました。教頭としても、前年度の状況から分掌により長時間勤務が重なる教職員や時期を把握し、健康管理や組織体制が組みやすくなりました。教職員が、忙しい時期にヘルプと言える、組織として助け合える職場づくりを目指しています。

2 グループウェアの活用による意識改革

新潟市教育委員会では、2020年度に校務支援システムの導入を目指して予算化しようとしています。校務の効率化により、授業準備や子どもと触れ合う

時間の創出をねらっています。すでに多くの教育委員会では導入済みや来年度導入予定なので、遅れを取っていると云わざるを得ません。当校では、事務職員からの提案で、今年度無料グループウェアを導入しました。教職員で校務の効率化を体験・実感することと、会議や打合せ資料のペーパーレス化をねらっています。

無料グループウェアは、近隣校でも導入実績があり情報提供を得やすいグループセッションを導入し、回覧板、ショートメールとファイル管理に絞り活用し始めました。簡単な連絡等は回覧板やショートメールを使い、週2回行っている職員の打合せ時間の中身を効率化し、児童の情報交換や職員同士の共通理解を深める時間に割けるようにしています。また、職員会議等の資料はファイル管理の中に集約し、会議等の際には各自PC上で閲覧し、必要に応じてプリントアウトしています。紙ベースでの資料配付を減らすことができ、紙使用量の削減になります。担当者が資料印刷や製本準備に煩わされることもなくなります。加えて机上の書類を整理する手間も省け、教室がスッキリしてきました。使える機能は、他にも掲示板、日報、アンケート、施設予約等ありますが、学校の規模やニーズ、そして何より全教職員が使いこなし、利便性を感じられることを重要視して選択することが肝要のようです。

平成30年12月に中央教育審議会から出された「…働き方改革に関する総合的な方策について(答申素案)」の中に、『学校における働き方改革の実現により、教師は“魅力ある仕事”であることが再認識され、これから教師を目指そうとする者が増加し、教師自身も誇りを持って働くことができることは、子供たちの教育の充実に不可欠であり、次代の我が国を創造することにほかならない。』とあります。日々の実践は僅かでも、着実な取組の積み重ねが働きやすい職場、そして働きがいのある職場へとつながっていくことを願っています。

随 想



わたしの本棚

南魚沼市立城内小学校

平 澤 亜紀子

「趣味は？」と聞かれたら「読書」と答えるわたしの3つの本棚を少しだけご紹介。

1 仕事の本棚

斎藤喜博「教育学のすすめ」、神谷美恵子「こころの旅」などが並ぶ学生時代からの本多数。なぜ教師になったのか原点に立ち戻りたくなったときに。

2 子どもの本棚

低学年に入教するときには読み聞かせをすることが多い。今年一番人気があったのは、長谷川義史訳「サンカクさん」「ももたろう」「さるかにがっせん」「したきりすずめ」などなど日本の昔話を選んで読み聞かせることが多いので、うまく読めるようになりたいと日々練習中。

3 寝る前の本棚

開放感に浸る至福のひと時。読書と同じくらい大好きな映画やテレビは見る時間もなく、原作を読んで勝手に俳優を当てはめて楽しむ。司馬遼太郎「峠」はどのように映像化されるのか。逆に、映像化された作品をシナリオで読むのもまた楽しい。元気を出したいときには三浦しをん。「舟を編む」では辞書編纂者、「風が強く吹いている」では長距離ランナー、「まほろ駅前シリーズ」では便利屋、「神去シリーズ」では林業と、様々な職業の人に会わせてくれる。ときめいて元気になるなら有川浩。「図書館戦争シリーズ」「旅猫レポート」「植物図鑑」「阪急電車」などとにかく登場人物が愛おしい。泣いて元気になりたいときに原田マハ。「本日は、お日柄もよく」では言葉の力、「生きるぼくら」では自然の力、「キネマの神様」では、映画の力が背中を押してくれる。

そして、朝。すっきりと目覚め、笑顔で子どもや先生方の前に立てることに感謝しきりの毎日である。
追記

年末に宮川ひろさんの訃報。「先生のつうしんぼ」「四年三組のはた」は、教師になるきっかけを与えてくれた本であった。



風をつかむ

新発田市立川東中学校

安 達 直 人

教頭職につき2年となります。この間、何度か頭に浮かんだ言葉に「天上大風」があります。誰もが知る良寛禅師の書であり、スタジオジブリの「風立ちぬ」(宮崎駿監督)の劇中にも額縁に飾られ二度登場します。解釈は諸説ありますが「澄み切った青空でも、上空では大きな風が吹き荒れている」が一般的で、さまざまな場面で引用されています。いつも平穏な学校現場ですが、「新学習指導要領」「技術革新(AI)」「働き方改革」など、さまざまな変革の風が頭上を駆け巡っている状況と重なります。そんな慌ただしい世の中の変化を感じるたびに、良寛禅師の書を思い返します。

ジブリ作品の「風立ちぬ」では、主人公の堀越二郎に、設計家カプローニ伯爵が「まだ風は吹いていますか」「力を尽くしていますか」と夢の中で語りかけます。変革の風に追い立てられている感もありますが、私なりに、この風をつかまえようと心がけています。

一つは、風の流れを見失わないことです。最近、教育雑誌だけでなくビジネス雑誌にも手を伸ばすよう注視しています。「次の社会に求められているものは何か」、先輩教師からよくアドバイスされてきたことが、今頃分かった気がします。書店や図書館にも立ち寄ることが増え、隙間時間の楽しみとなっています。もう一つは、風の流れを学校に取り入れることです。アクションプラン、ファシリテーション、ストレスマネジメント、スポーツエキスパート事業などを紹介し、生徒にとっても、職員にとってもバランスのよい変革を心がけています。

良寛禅師は、子どもにせがまれて、風の和紙に「天上大風」と書きました。上空の強い風をしっかりとつかまえて、風が高く舞い上がるという願いがあります。現代の子どもたちが、風をしっかりとつかむための資質や能力は何かを考え、今後も力を尽くしたいと思います。

教育懇談会報告



平成30年度 教育懇談会の報告

新潟県小中学校教頭会

副会長 **牧野 剛**
(新潟市立東新潟中学校)

日時：平成31年 1月22日（火） 15：00～16：55

会場：じょいあす新潟会館

主催：新潟県小学校校長会・新潟県中学校校長会

1 教育委員会御指導

新潟県教育庁義務教育課長 **大橋 伸夫** 様

- ・子どもたちの安全、安心確保の重要性を強く感じている。地域と一体となった通学路等の安全確保に尽力いただき感謝している。
- ・いじめに対する校内体制の再点検を進めながら、子どもたち一人一人に寄り添った指導を推進してほしい。
- ・働き方改革の取組への感謝と講師不足や教員志願者の減少を受けて、一層社会や地域に信頼される学校教育を目指したい。

新潟市教育委員会教育次長 **高居 和夫** 様

- ・授業改革、インクルーシブ教育の推進、新学習指導要領への準備を進める一方で、国を上げての働き方改革が具体的な指針とともに示され、教育現場は一層厳しい状況に置かれている。そのような状況の中、学・社・民の融合による教育は着実に子どもたちの望ましい姿となって現れていることに感謝申し上げる。

2 研究協議

協議題「社会に開かれた教育課程」

話題提供①

新潟市立小針小学校 **長谷川 豊** 校長

～社会に開かれた教育課程の実現のために

校長がすべき3つのこと～

- 子どもが大人になった時の社会で生き抜くための力は何か、どう育むのかを示す。
- 社会とのつながりを考えた教育課程をどう編成するのかを具体で示す。

- 地域の人的・物的資源を活用し、学校教育の取組を地域に多様な方法で発信する。

【キーワード】

「応答力」のある子どもと教職員
主語は「教師が」から「子どもが」へ
話題提供②

上越市立柿崎中学校 **長谷川 泰山** 校長

～地域の特色を生かし、地域とともに歩む

学校づくりのための3つの取組～

- 校長によるビジョンの明示と保護者、地域との共有（学校運営協議会の実施）
- 地域を活用した「総合的な学習の時間」の推進
- 生徒会による地域自慢の様々な取組

【成果】・地域に対する生徒の意識の変化

【課題】・「地域連携」から「地域参画」へ

- ・地元企業、高等学校との連携

3 指導講評

新潟県教育庁義務教育課長 **大橋 伸夫** 様

- ・今後は学校として何をやらないか。やらないことをどう決断していくのか。それを地域や保護者にどう丁寧に説明していくかも大切。（国、県への要望についての回答）
 - ・人的配置の拡充を引き続き国に要望していく
 - ・その他（教職員の待遇改善・給与体系の一本化、県教委の指導体制、研修体制の整備 等）
- 新潟市教育委員会学校人事課長 **池田 浩** 様
- ・自校の教育目標が「本当の意味で社会に開かれているのか」をもう一度見直してほしい。
 - ・教育活動精選の視点は、その活動が社会に繋がっているかどうかで考える。
 - ・地域を歩き地域を知り、未来の社会について勉強しなければ、地域を語ったり社会を語ったりすることはできない。
 - ・「質問はありませんか」ではなく、「どんな質問がありますか」と問い続けることが、子どもたちに学び続ける姿勢を促す。

新潟県小中学校教頭会
[事務局]
県教頭会ホームページ
全国公立教頭会ホームページ

〒950-0911 新潟市中央区笹口2丁目7-17 和田ビル2F
E-mail n-kyotoh@crest.ocn.ne.jp TEL (025) 244-8225
http://www.niigata-kyotokai.jp/ FAX (025) 244-5060
http://www.kyotokai.jp/